



犬とキャッチボール

12

「3歳の孫が自分に懐いてくれない」。そんな悩みが、新聞の相談コーナーに載っていました。相談員は「あなたが嫌いなのではなく、何か良くない印象と結びついてしまっているのかも」と、アドバイスしていました。そのやりとりが、子犬を育てるときのアドバイスと驚くほど似ていました。

「僕に人との付き合い方を教えて下さい」
れば知るほど、支配しようなんて思えません。私が接する多くの飼い主も、犬と友達や家族のように接したいと思っています。
犬は、そうした人の思いにこたえてくれる生き物です。それだけでなく、こちらの一貫しない態度にも懸命にこたえようとしてくれて、いつもそばにいてくれます。

また人材育成のノウハウ本には「ダメなところを注意するより、良いところを褒めよう」とか「身近な目標を作って、少しずつ達成させよう」などと書かれています。これもそっくりドッグトレーニンクに、当てはまります。

しかし、いつしか「人が犬の上に立つて支配すればいい」という考えが、広まってしまった。でも今、多くの専門家はそのような考え方は採っていません。それではうまくいかないから与えられてきました。精

いい関係を築く

たくさん与えられた

とが、分かってきたからで、私自身、犬のことを知らない、犬を通して尊敬できる仲間と出会うこともでき

神的な安らぎや支えだけではない、先生や、悩みを相談できる仲間と出会うこともでき

る先生や、悩みを相談できる仲間と出会うこともでき

る先生や、悩みを相談できる仲間と出会うこともでき

ました。そしてこの連載を書く機会も、ありがたございました。
(辻村愛・ドッグトレーナー)

—おわり—

